

東浦町まちづくりワークショップ

第6回「東浦町のまちづくりの進め方を語ろう！」

開催記録

1 開催概要

- 日 時：平成30年1月21日（日） 午後1時30分から午後4時
- 場 所：東浦町勤労福祉会館 2階会議室1
- 参加者数：19名
- 内 容：
 1. 開 会
 2. あいさつ
 3. 本日の予定について
 4. 東浦町の現状と課題について
 5. グループワーク
テーマ『東浦町のまちづくりの進め方を語ろう！』
ステップ1：「『協働のまちづくり』って？」
ステップ2：「僕たち私たちが心がけること！」
ステップ3：「発表しよう！」
 6. 閉 会

2 開催の様子

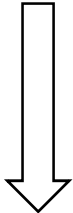


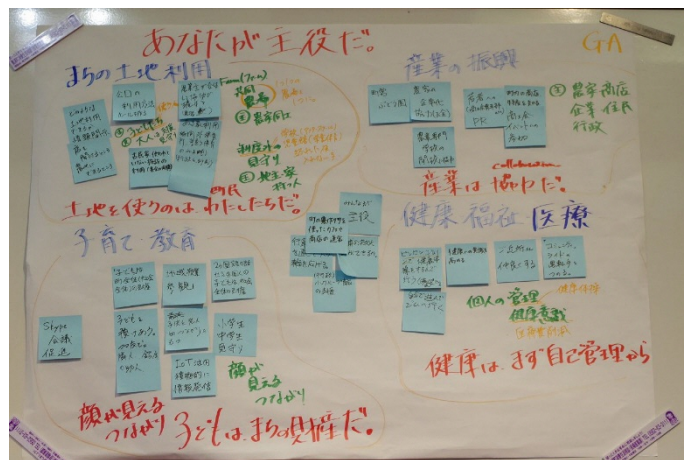
3 分野のまとめ

協働のまちづくりとは	協働のまちづくりを進めるために必要なこと
○ 年齢や国籍、男女等関係なく同じ目標を持つ ○ 近所やコミュニティで話し合い、協力する ○ 企業と町民公所、等が合体してできること ○ 色々な考えを持った人が必要 ○ パートナー協力→上下関係なし ○ 行政と住民、住民と住民の役割分担 ○ それぞれの得意を生かす ○ 多数の Target（目標） ○ 住民の主体的参加の意欲引き出す ○ ひとりの課題はみんなの課題 ○ 行政と地域住民が 1 つの課題を考える ○ 住民主導行政サポート ○ 住民が必要とする施策を行政と共に実行 ○ 住民に押しつけるのではなくコミュニケーションが大切 ○ 住民のアイデアを活かす姿勢が行政に必要 ○ 行政のひとりよがりにならない ○ ボランティアの認識 ○ ボランティア活動を住民自治に入れる ○ ボランティア、行政、各種団体との連携自分に都合の悪いことでも排除しないこと ○ 公共の仕事を地域住民ともに出来る様に ○ 防犯、防災等のテーマを決めて協働力を高める ○ 住民が地域の現状把握をする場を設ける ○ 文句を言わない！ ○ 自治会の進め方を理解 ○ 地域を愛する！ ○ 悲観的な考えにならない ○ 町と住民との話し合いの場を増やす ○ 行政への要望が伝えやすく、また、その意見を元に行政も真摯に取りくんでくれる ○ 役場の職員が NPO などに行って研修を！ ○ がんばってる活動を応援するようなシステムの拡充 ○ 住民が「協働」ということを理解していない ○ 失敗してもいいシステム作りのきっかけ ○ 意見を出しやすいまちづくり ○ コミュニティ情報発信 ○ 文化促進が協働につながる ○ 自分事として周りが見える地域	[土地利用] ➢ 空家、空地の有効活用 ➢ 自治体から情報発信 ➢ 農業主が合体して協働で生産する（農協） ➢ 地権者を中心に先進地視察会をする ➢ 住民、事業者、行政のはなしあい ➢ ルール、枠を越えてみよう [産業振興] ➢ 町営ぶどう園 ➢ 農家の企業化協力 ➢ 農業専門学校の開校に協力 ➢ 工場＋住宅地 共同立地とする税軽減 ➢ 高齢者による起業 行政の手助け ➢ イベント企画を自治会と共同で！ ➢ 空農地の借用情報を促す。 ➢ 地元小店舗での購入促進策を行う ➢ 多様性を応援、ワクワク感を創出する！ ➢ 地元と会社融合 [子育て・教育] ➢ Skype 会議促進 ➢ 「子ども」は町全体の財産 ➢ 地域授業参観 ➢ IoT 活用 積極的に情報発信 ➢ 2ヶ国語話せる外国人の子どもは町の財産 ➢ 教育経験者の発掘と活用 ➢ あるべき姿を共有する地域での勉強会など ➢ 2世代住宅の促進を図る ➢ 妊娠期～の相談できる場の周知と相互理解 [健康・福祉・医療] ➢ 健康への意識を高める ➢ 住民アイデアを実現するように行政が資金、法的整備でバックアップする ➢ 小学校、中学校の中での地域食堂 ➢ 障がい者の働き場所づくり ➢ 困りごと解決インフラ整備（登録、マッチング機能） [その他全体] ➢ みんなが主役 ➢ 町の農作物を使ったカフェや商店の運営 ➢ 行事・イベントを通じて、人の輪を広げる。 ➢ （行政）小グループ育成の支援 ➢ 困りごとの共有・発信（SNS 等ふくめ） ➢ 住民が行政、地域自治会に問題点、気が付いた点を言える体勢にする

■ 各グループのまとめ

A グループ

分類	協働のまちづくりとは	コメント
WHO 誰と…	・ 国籍の違う人、言葉の通じにくい人とも共にやっていく。 ・ 年齢や国籍、男女等関係なく同じ目標を持って共に頑張る ・ 若者・中年・老人が共にすすむ。 ・ 近所やコミュニティで協力する ・ 老人と町民、隣人がかかわりあえる ・ 企業と町民公所、等が合体してできること ・ 色々な考えを持った人 ・ 地域の人、ご近所の人と日常的に課題を話し合いながら。 ・ パートナー協力→上下関係なし	
HOW どうやって…	・ 役割分担 ・ それぞれの得意を生かす ・ 1つの Goal ・ それぞれの人に役割がある ・ 多数の Target (目標) ・ 協力して働くこと。 ・ “手段”	
“協働” 	・ 住民の主体的参加が基礎。 そのための意欲を、どう引き出か。 ・ 「協働」の前提は、地域の人々の顔と名前がわかること。 ・ 気軽に話せる関係性の構築	・ 課題＝顔が分からない。 ・ 話す機会ない ・ 集まる場がない ←ぴったりの場所ない。疎外感
解決 できれば…	・ 学校、保育等（教育）が合同でである機会をもつ ・ 住民等が活やくできる場	・ 何でもできる。



あなたが主役だ。

分野	キャッチコピー	協働のまちづくりを進めるために必要なこと	コメント
まちの土地利用	土地を使うのは、町民わたしたちだ。	・どのような土地利用できるか情報開示 ・店を開けるところ農地にできるところ・・・ ・公園の利用方法ルールを作る ・古民家、使われていない施設の利用（集会の開催） ・農業主が合体して協働で生産する（農協） ・あき家利用時間外保育所、学どう保育のみまもり（行政と町民）	（主）子どもたち＝使う人 （支）大人は支援、見守り ☆ Farm（ファーム）共同農場 1つ1つの農場を1つに。 （主）農家同士 ☆ 制度外の見守り 学校（アフタースクール） 児童館（学童保育） 終わった後、入れない子 （主）地主・家持つ人
子育て・教育	顔が見えるつながり 子どもは、まちの財産だ。	・Skype 会議促進 ・「子ども」は町全体（社会全体）の財産 ・子どもを預けあう。ママ友で。 ・隣人、銀、金、の助人 ・地域授業参観 ・子供と老人とのつながりをもつ ・IoT 活用 積極的に情報発信 ・2カ国語の話せる外国人の子どもは、社会全体の財産 ・小学生中学生見守り	顔が見えるつながり
産業の振興	産業は協力だ。 Collaboration	・町営ぶどう園 ・農家の企業化協力（お金） ・農業専門学校の開校に協力 ・若者への（商工会青年部 etc）PR ・町内の商店、特産を知る ・商工会イベントへの参加	（主）農家・商店・企業・住民・行政
健康・福祉・医療	健康は、まず自己管理から	・ピンピンコロリンで、健康体操をすすんで行う（保健センター） ・自分で進んでジムへ行く ・健康への意識を高める ・ご近所さん仲良くする ・「コミュニティ」ライドの運転手をつのる。	個人の管理ー健康体操 健康意識・医療費削減
		・みんなが主役 ・町の農作物を使ったカフェや商店の運営 ・行事・イベントを通じて、人の輪を広げる。 ・東浦のために何ができるか。 ・（行政）小グループ育成の支援	

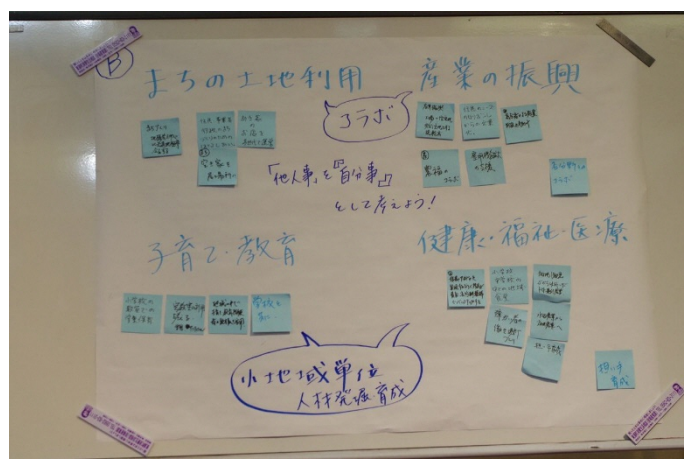
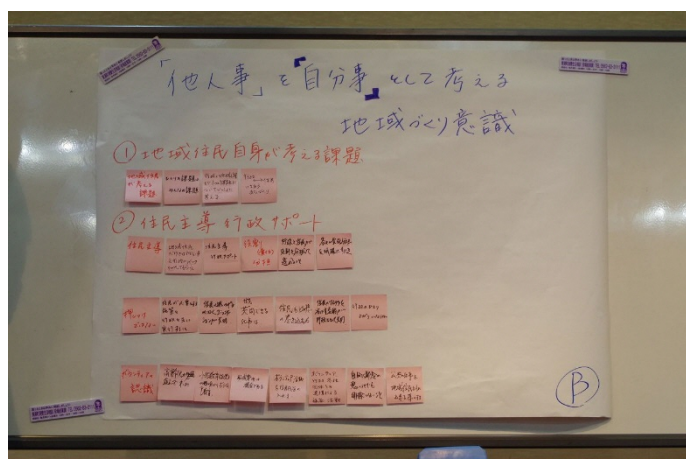
Bグループ 「他人事」を「自分事」として考える地域づくり意識

分類	協働のまちづくりとは
①地域住民自身が考える課題	[地域住民が考える課題] ・ ひとりの課題はみんなの課題 ・ 行政と<u>地域住民</u>が1つの課題について<u>いっしょ</u>に考える ・ 行政←→住民 いきあうまちづくり
②住民主導行政サポート	[住民主導] ・ 地域住民だけではできない事を行政に<u>バックアップ</u>してもらう。 ・ <u>住民主導行政サポート</u> [役割（責任）分担] ・ 行政と住民が役割を<u>分担</u>して進めること ・ 各々の責任<u>分担</u>を明確にすべき ・ [押しつけではない] ・ 住民が必要とする施策を行政と共に実行すること ・ 住民に押しつけるのではなくコミュニケーションが大切 ・ 住民共同できる仕事は ・ 住民もどの様に巻き込むか ・ 住民のアイデアを活かす姿勢が行政にとって大切 ・ 行政のひとりよがりにならない [ボランティアの認識] ・ 高齢化が進んで来た ・ 子供教育（幼児）の頃からボランティア教育 ・ 助成費用は税金である ・ ボランティア活動を住民自治に入れる ・ ボランティア、行政、各種団体との連携による福祉活動 ・ 自分に都合の悪いことでも排除しないこと ・ 公共の仕事を地域住民ともに出来る様にする

「他人事」を「自分事」として考えよう！

分野		キャッチコピー	協働のまちづくりを進めるために必要なこと
まちの土地利用	コラボ		・ まちづくり 地権者を中心に先進地視察会をする ・ 住民、事業者、行政のまちづくりのためのはなしあい。 ・ あき家のお店を多世代で運営 ・ [まち]空き家を居場所に ・
産業の振興		各分野とのコラボ	・ 工場＋住宅地 共同立地とする税軽減 ・ [産]農福のコラボ ・ 住民のニーズのほりおこしからの企業化。

			・雇用機会拡大の支援 ・高齢者による起業 行政の手助け
子育て・教育	人材発掘・育成 小地域単位	学校と共に	・小学校の教室での学童保育 ・空教室の利用を考える、学習、アフタースクール ・地域の中で子育て・教育経験者の発掘と活用
健康・福祉・医療		担い手育成	・住民のアイデアを実現するように行政が資金、法的整備でバックアップする ・小学校、中学校の中での地域食堂 ・障がい者の働き場所づくり ・担い手育成 ・水田農業から畑地農業へ ・畑地/観光 ぶどう以外いちごトマト集約農業



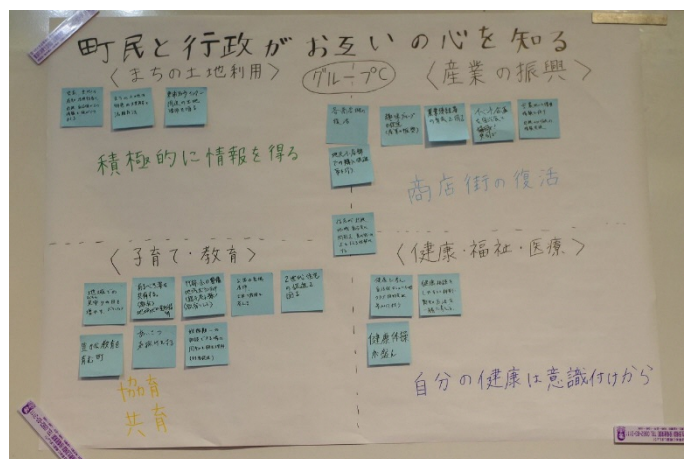
C グループ 町民の心を知る→町民と行政、相互にお互いの心を知る

分類	協働のまちづくりとは
住民	・ 近隣との助け合い！ ・ 防犯、防災等のテーマを決めて協働力を高める ・ 地域のことは地域で行う、近所付き合い ・ ボランティア活動への積極的参加 ・ 住民が地域の現状把握をする場を頻繁に設ける ・ 住み良いまちにするには？という考えの元、協力を求める ・ 文句を言わない！（自分） ・ ボランティア精神を持つ！（自分） ・ 自治会の進め方を理解 ・ 同世代だけでなく幅広い世代で関わりをもつ ・ 廻りとの協調（近隣を良く知る！） ・ 住民同士のつながりの強化 ・ 住民が出来る事は住民が行う ・ 地域を愛する！（自分） ・ じまんができる町 ・ 世代間の交流のコミュニケーションの場を設ける ・ 悲観的な考えにならない様に行政にも助けを促す ・ 町と住民との話し合いの場を増やす ・ 行政と住民と一緒に町の問題を考え、取り組む
行政	・ [行政]趣味の集まりに関わる ・ [行政]地域の 5S に理解（推進） ・ 行政への要望が伝えやすく、また、その意見を元に行政も真摯に取りくんでくれる ・ [行政]高齢者の免許に関心をもって！

町民と行政がお互いの心を知る

分野	キャッチコピー	協働のまちづくりを進めるために必要なこと
まちの土地利用	積極的に情報を得る	・ 空家、空地の有効活用する為に行政、自治体からの情報を促してもらう ・ まちの土地の特色の理解と活用方法 ・ 東浦知多インター周辺の土地活用を図る ・ 各商店街の復活（重複） ・ 地元小店舗での購入促進策を行う（重複） ・ 住民が行政、地域自治会に問題点、気が付いた点を言える体勢にする（重複）
子育て・教育	協育 共育	・ 地域での子どもの見守りの目を増やす、ボランティア ・ 豊かな教育を育む町 ・ あるべき姿を共有する（教育）地域での勉強会など

		・あいさつ声掛けをする ・竹林、山の整備、地域ボランティア（親子、老人孫）（教育として） ・公園の整備、清掃、公園の活用を考える ・2世代住宅の促進を図る ・妊娠期～の相談できる場の周知と相互理解（利用促進） ・住民が行政、地域自治会に問題点、気が付いた点を言える体勢にする（重複）
産業の振興	商店街の復活	・趣味グループの促進 ・農業後継者の育成を図る ・イベント企画を自治会と共同で！ ・空農地の借用情報を促す。行政←→住民の情報交換 ・各商店街の復活（重複） ・地元小店舗での購入促進策を行う（重複） ・住民が行政、地域自治会に問題点、気が付いた点を言える体勢にする（重複）
健康・福祉・医療	自分の健康は意識付けから	・健康を考え、自治体コミュニティクラブ同好会に参加してもらう ・健康体操が盛ん ・健康相談をしやすい体制・周知方法を一緒に考える ・住民が行政、地域自治会に問題点、気が付いた点を言える体勢にする（重複）



Dグループ

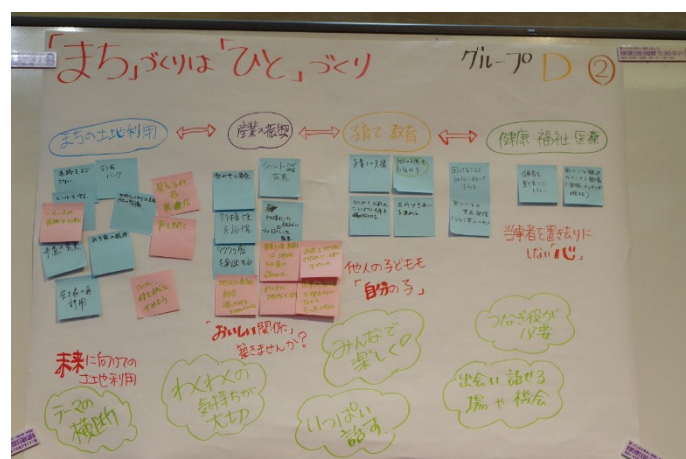
意識目的 → **手法のひとつ それぞれ出来ることが違う** → **役割分担(システムかな)**

分類	協働のまちづくりとは	コメント
行政	・ 役場の職員 NPO などに行って研修を！ ・ 役場職員 新入研修で協働を学ぶ！ ・ 役場の職員の理解が必要！ ・ がんばってる活動を応援するようなシステムの拡充	意識 目的 同じ やっぱり意識！
住民・地域	・ 対等な作業 ・ 住民が「協働」ということを理解していない ・ 住民 失敗してもいいシステム作りのきっかけ ・ 意見を出しやすいまちづくり ・ 地域で困っていることを出し合う ・ 情報のやり取り（相互） ・ 実行委員会的なものを作り、そこで話し合う ・ コミュニティ情報発信少ない！ので情報発信 ・ 文化促進が結果協働につながる ・ 話す機会が多い地域 ・ 外国人と地域 ・ 目的というベクトルが同じ ・ 困っていることを助け合って進めていく ・ 住民にとっては選択肢があること ・ 生活の困り事を共有できる地域 ・ 分野別に分けて、その解決に向けて進めていく ・ 住民・職員啓発活動から ・ 役割分担 ・ 強味のオードブル 弱味は補い合う	助けて！助けるよ！の 協働作業 やっぱり意識！
個人の意識	・ 仲間をつくること ・ 多くの仲間をつくる ・ 助けてだけではなく助けるができる地域 ・ 助けてが言える地域 ・ 近所のコミュニケーションを計る ・ 近所同士の助け合いがない ・ 自分事として周りが見える地域 ・ 趣味を持ってないと家から出る機会がない ・ 若い人と高齢者との付き合いが悪い ・ 役割の補完（個人→近所→地域→行政）	つなぎ役欲しいな やっぱり意識！

「まち」づくりは「ひと」づくり

分野	キャッチコピー	協働のまちづくりを進めるために必要なこと
まちの土地利用	未来に向けての土地利用 テーマの横断	・ 道路をよごさない ・ ルールを守る ・ 一人一人の意識や行動

		・ 歩道の充実 ・ 空き家の再利用 ・ 空き家バンク ・ 地域をつなげる道路網の整備 ・ あき家の提供 ・ 見える化→発信 ・ 声を聞く ・ ルール、枠を越えてみよう
産業の振興	「おいしい関係」築きませんか？ わくわくの気持ちが大切	・ 飲みやで集会 ・ 多様性を応援 ・ ワクワク感を創出する！ ・ 地元と会社融合 語ってみる もりあげてみる ・ イベントなど共有 ・ 多様化した福祉に←→多様化した産業 ・ 産業（工業、商業）は地域とは遠い会社のこと ・ わくわく地域と企業 ・ お金を地域のために使いませんか ・ 企業の強味を使わないなんてもったいない
子育て・教育	他人の子どもも「自分の子」 みんなで楽しく！ いっぱい話す	・ 子育ての支援 ・ とにかく、だれのことばにも耳を傾ける ・ 他人の子供も自分の子 ・ 近所づきあいを進める ・ 困ってることをみんなに知ってもらう（重複） ・ 困りごとの共有・発信（SNS 等ふくめ）（重複）
健康・福祉・医療	当事者を置き去りにしない「心」 つなぎ役が必要 出会い、話せる場や機会	・ 当事者を置き去りにしない ・ 困りごと解決のインフラ整備（登録、マッチング機能） ・ 困ってることをみんなに知ってもらう（重複） ・ 困りごとの共有・発信（SNS 等ふくめ）（重複）



4 アンケート集計結果

問1 本ワークショップを知ったきっかけ（当てはまるもの1つに○）

選択肢	件数
募集案内チラシ	3
広報	7
東浦町ホームページ	2
SNS	0
友人・知り合いなどから聞いた（誘われた）	1
その他	5

その他

- ・DM
- ・掲示板
- ・役場
- ・行政
- ・職場で話を聞いた

問2 本ワークショップの満足度についてお選びください。（当てはまるもの1つに○）

選択肢	件数
大変満足	5
満足	12
不満	2
大変不満	0

問2-1（問2で1・2と回答した方）満足した理由【当てはまるものすべてに○】

選択肢	件数
時間が適切だった	6
作業の内容が適切だった	6
今後のまちづくりを考えるよい機会となった	11
資料等がわかりやすかった	2
その他	1

その他

- ・グループの方々と交流を深めることが出来ました。

問2-2（問2で3・4と回答した方）満足しなかった理由【当てはまるものすべてに○】

選択肢	件数
時間が足りなかった	0
作業の程度が高すぎた	0
今後のまちづくりについて考えにくかった	0
資料等がわかりにくかった	0
その他	2

その他

- ・1つにまとめるには、回数がある内容だと思います。
- ・難しかったです。

問3 その他、ワークショップ全般に関する感想・ご意見をご記入ください。

テーマが複雑で新しかったがそれなりに勉強させていただきました。ありがとうございました。次もあれば参加させていただきます。
多くの住民が参加できるようアトラクションなど工夫があったらよい
一般の参加者が少なかった。もう少し一般の参加者があるといいと思います。
こういう形で行政に参加できたことがよかったです。行政に関心を持ち、自治意識を高め、住民が主体者になれるように、取り組みを多分野で続けていってほしいです。自治意識の高い町になっていけばと思います。
町の様子を住民さんと考える機会となり大変勉強になりました。
役場職員や地域活動に積極的な方以外は「協働」という言葉自体に耳なじみがないと思うのでもう少し詳しい説明があってもよかったですと思います。
おもしろい意見をたくさん聞くことができ、楽しかった。
いろいろな方から楽しい意見が聞けてよかった。
とても難しいです。でも勉強になりました。
このような機会をいただきありがとうございました。
今回のワークショップがどのように反映されるのか気になります。
まちづくり、意欲が高まって良かったです！
グループで意見交換が活発に行えていい機会になりました。住民さんの意見を聞くいい機会でした。